

## 学校事務向上へ 稲沢で東海大会

学校事務の質の向上を目指す「東海地区公立小中学校事務研究大会」が八、九日、稲沢市の名古屋文理大文化フォーラムなどであり、愛知、岐阜、三重、静岡県四県の事務職員ら千六百人が参加した。写真。

テーマは「学校・家庭・地域、次代へつなぐ学校事務の創生」。四県の持ち回りで毎年開催。今年は五十回の記念大会として、日程を二日間にした。

九日のシンポジウムでは、加藤崇英・茨城大大学



院准教授が、二〇二〇年度からの新しい学習指導要領では、学校は授業の質を改めることを求められていると指摘。「この動きを、事務職員が予算、財務の面でどこまで支援できるかだ」として、事務職員の役割に期待を寄せた。

風岡治・愛知教育大准教授は、事務職員と教員が連携して業務改善に取り組む新潟県五泉市などの先進事例を紹介した。